

オンライン

ウィズ／ポスト・コロナの 教育・研究のあり方

～アナログとデジタルは「混ぜるな危険▲」か？～

2020年10月17日（土） 14:00 – 16:00

2020年1月末から日本での感染が広がっている新型コロナウイルスが、我々に生活様式の変化を迫るものだと、当初、誰が予想できたでしょうか。

3月、小中高校は臨時休校の措置を取り、学校に通えて当然、学校で学べて当然という我々が持っていた「当然の価値」さえも変化させる必要が出てきました。そんな中、コロナ禍でありながらも、いかに「学びの保障」に努めるかが、学校現場に突き付けられた課題でした。4月から、十分な準備期間もないまま大学では突としてオンライン授業が始められました。小中高校では臨時休校が継続し、各教育委員会・各学校で課題を出したり、学習サイトをwebサイトに掲載したりして、できることに取り組みました。

本シンポジウムでは、現在と未来に目を向けて、ウィズ／ポスト・コロナの中で教育・研究はどうあるべきか、どうあることが可能なのかについて、パネリストを交えて議論をします。

パネリスト

大学での取り組みについて
北星学園大学

金子大輔（'97年 学部・卒業）
（'99年 博前・修了）
（'03年 博後・満退）



パネリスト

高等学校での取り組みについて
愛知県立名古屋西高等学校

向井昌紀（'19年 博後・入学）



司会・パネリスト

本研究科の取り組みについて
名古屋大学

坂本将暢（'08年 博後・満退）

